

# 第5節 音 楽

## 第1 本資料の活用について

### 1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説音楽編、埼玉県中学校教育課程編成要領の趣旨及び内容を踏まえ、各学校における指導計画の作成や授業を展開する上での参考資料として作成したものである。各学校においては、生徒や学校及び地域社会の実態に即した指導計画の作成及び感性を高め、思考・判断し表現する一連の過程を大切に音楽科指導を展開する上で大いに活用されたい。

### 2 取り上げた内容及び実践化への配慮事項

#### (1) 年間指導計画例について

第1学年の年間指導計画例(「マトリックス表」及び「各題材の具体を示した表」)を示している。各学校においては、「マトリックス表」及び「各題材の具体を示した表」の2種類を作成する。なお、「マトリックス表」に、本資料の指導計画例で取り上げた題材を示している。

#### (2) 学習指導案例について

第1学年の学習指導案例を1事例示した。学習指導案作成に当たっては、学習指導要領の歌唱、器楽、創作、鑑賞ごとに示された指導事項と〔共通事項〕とを関連させるとともに、音楽科の特性に即した思考力、判断力、表現力などの育成が図れるようにすることが肝要である。本資料では、「学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動」を表で示している。年間指導計画をもとに各題材の学習指導案を作成する際、参考にされたい。

○学習指導案例 題材名「和楽器の響きと我が国の伝統的な歌唱に親しもう」(第1学年・4時間扱い)

(教材：姫松・若竹、さくら、初音の曲)

(ねらい) 曲種に応じた発声や言葉の特性を生かして歌う。

(実践化への配慮事項) 箏曲に応じた発声や言葉の特性を生かして歌うことが出来るよう、箏の基本的な奏法を身に付けるとともに地歌箏曲の歌唱表現の特徴を知覚、感受する場面を十分設定し、歌唱表現を工夫させるようにする。

#### (3) 指導計画例について

下記の1～5のとおり指導計画を5事例示した。内容は、「1 題材の目標」「2 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動」「3 教材名」「4 指導と評価の計画」とした。なお、※印は、各指導計画例における実践化への配慮事項を示している。

##### 1 創作の指導計画例『「さくら」の間奏をつくろう』(第1学年・2時間扱い)

(ねらい) 平調子の特徴を感じ取り、リズムや音のつながり方を工夫して旋律をつくる。

※旋律をつくる際には、手がかりとなる平調子の特徴を十分感じ取らせるとともに、用いるリズムの特徴と生徒の表現したいイメージをかかわらせながら創作活動を展開させるようにする。

##### 2 鑑賞の指導計画例「音楽のもつ豊かな表現力を味わおう」(教材「魔王」)(第1学年・2時間扱い)

(ねらい) 声の変化などを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、歌唱表現の豊かさを感じ取る。

※独唱の声の変化や伴奏で繰り返される三連符等、音楽を形づくっている要素や音楽の構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴かせるとともに、言葉で説明するなどして音楽のよさや表現の豊かさを感じ取れるようにする。

##### 3 歌唱の指導計画例「声部の役割を生かして表現を工夫しよう」(教材「心の中にきらめいて」)(第2学年・3時間扱い)

(ねらい) 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫する。

※合唱演奏の完成度を高めるのみでなく、本題材のねらいである「声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して表現を工夫する」ことが主な学習活動となるような指導を展開させるようにする。

##### 4 器楽の指導計画例「箏のよさを感じ取ろう」(教材「六段の調」)(第3学年・2時間扱い)

(ねらい) 箏の特徴を生かして演奏するとともに、我が国の伝統音楽のよさを味わう。

※箏の基本的な奏法を学習する際には、奏法による音色や余韻の変化等を知覚し、それらの特質や雰囲気を感じさせる学習場面を十分設定するとともに技能を習得させるようにする。

##### 5 歌唱と鑑賞の指導計画例「長唄の表現と歌舞伎」(教材長唄「勸進帳」)(第3学年・3時間扱い)

(ねらい) 長唄の歌唱活動と歌舞伎の鑑賞活動を通して、我が国の伝統音楽のよさを感じ取る。

※我が国の伝統的な声の特徴を感じ取る歌唱表現活動と長唄の鑑賞活動における〔共通事項〕を、本指導計画では、音色、旋律、間の三つに焦点化し、表現と鑑賞の活動を切り結んで展開させるようにする。

第2 指導計画作成のための資料

(1) 第1学年音楽科年間指導計画（マトリックス表）の例 ※このページ以降の「吹き出し」については、指導計画作成上の留意事項を示している。

学年目標	学習過程										共通事項	
	A			B			C		賞			
	(1) 歌唱			(2) 器楽			(3) 創作		ア	ウ		
	ア	ウ	イ	ア	ウ	イ	ア	イ				
<p>第1学年の目標</p> <p>(1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活の豊かさを味わう。</p> <p>(2) 音楽活動を通して、多様な音楽表現の豊かさを身に付け、創意工夫して表現する能力を伸ばす。</p> <p>(3) 多様な音楽の楽しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。</p>	<p>主な教材</p> <p>時</p>	<p>新しい仲間と楽しく歌おう</p> <p>5</p>	<p>校歌</p> <p>明日という大空</p> <p>朝の風に</p>	<p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>リズム、メロディ、調性、拍子、速度、曲式、形や楽譜上の記号、音楽要素や知識の活用などについて理解すること。</p> <p>リズム・メロディ、調性、拍子、速度、曲式、形や楽譜上の記号、音楽要素や知識の活用などについて理解すること。</p> <p>我が国や世界の伝統音楽の特色や、我が国の音楽の発展について理解すること。</p> <p>我が国や世界の伝統音楽の特色や、我が国の音楽の発展について理解すること。</p> <p>我が国や世界の伝統音楽の特色や、我が国の音楽の発展について理解すること。</p>	<p>リズム・メロディ、調性、拍子、速度、曲式、形や楽譜上の記号、音楽要素や知識の活用などについて理解すること。</p> <p>我が国や世界の伝統音楽の特色や、我が国の音楽の発展について理解すること。</p> <p>我が国や世界の伝統音楽の特色や、我が国の音楽の発展について理解すること。</p>
<p>情景を想像しながら聴こう</p> <p>2</p>	<p>春</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>
<p>リコーダーの響きを味わおう</p> <p>3</p>	<p>ナカシカレクイエム</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>
<p>豊かな混声合唱の響きを味わおう</p> <p>8</p>	<p>Let's search for tomorrow</p> <p>各クラスで選んだ新曲</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>
<p>歌詞の内容を生かした表現をしよう</p> <p>3</p>	<p>赤とんぼ</p> <p>夏の日の贈り物</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>
<p>「さくら」の間奏をつくらう</p> <p>2</p>	<p>さくら</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>
<p>和楽器の響きと我が国の伝統的な歌唱に親しもう</p> <p>5</p>	<p>姫松・若竹</p> <p>さくらさくら</p> <p>六段の調</p> <p>初音の曲</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>
<p>我が国の音楽・アジアの音楽に親しもう</p> <p>4</p>	<p>越天楽</p> <p>日本民謡</p> <p>ガムラン 等</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>
<p>ギターに親しもう</p> <p>6</p>	<p>さらさら星</p> <p>カントリー・ロード</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>
<p>音楽のもつ豊かな表現力を味わおう</p> <p>2</p>	<p>魔王</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>
<p>卒業・進級の喜びを歌いで表現しよう</p> <p>5</p>	<p>遠い日の歌</p> <p>仰げば尊し</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>	<p>音色</p> <p>リズム</p> <p>メロディ</p> <p>調性</p> <p>拍子</p> <p>速度</p> <p>曲式</p> <p>形や楽譜上の記号</p> <p>音楽要素や知識の活用</p>

第1学年音楽科年間指導計画（題材の具体を示した表）の例

※観点1（音楽への関心・意欲・態度） 観点2（音楽的な感受や表現の工夫）  
 観点3（表現の技能） 観点4（鑑賞の能力）

月	題材名	指導のねらい ・学習活動	教材	共通事項		評価計画		備考
				ア	イ	評価規準	評価方法	
4	新しい仲間と楽しく歌おう (5時間)	○中学校での新しい仲間と歌声を合わせ、歌う楽しさを味わい、創意工夫して表現する。 ・変声期について理解し、無理のない声域や声量で伸び伸びと歌う。 ・歌詞の意味を感じ取り、その旋律にふさわしい表現を工夫して歌う。 ・歌う姿勢や呼吸の仕方に留意し、美しく響きのある声で歌う。	「校歌」(斉唱) 「明日という大空」 (同声二部合唱) 「朝の風に」 (混声二部合唱)	旋律 テカテカ 強弱	フレーズ legato	○無理のない声域や声量で、意欲的に歌っている。 (観点1) ○歌詞の内容を感じ取り、旋律にふさわしい表現を工夫して歌っている。 (観点2) ○美しく響きのある声で歌っている。 (観点3)	活動観察 発言内容 ワークシート 演奏聴取	
5	情景を想像しながら聴こう (2時間)	○音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取り、音楽のよさや美しさを味わう。 ・ソネットの情景を想像しながら聴く。 ・ソネットの情景と音楽を形づくっている要素や構造とのかかわりを感じ取る。 ・弦楽合奏とチェンバロの音色や奏法の特徴を感じる。	「春」(鑑賞)	音色 リズム 旋律 強弱	拍 拍子 フレーズ	○情景を想像しながら意欲的に鑑賞している。 (観点1) ○音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取り、音楽を形づくっている要素とかがわらせて言葉で説明している。 (観点4) ○楽曲の雰囲気や豊かな表現を味わっている。	活動観察 発言内容 ワークシート 発言内容 ワークシート	
6	リコーダーの響きを味わおう (3時間)	○リコーダーの美しい音色や響きを感じ取り、演奏する。 ・曲想を感じ取り、曲想にふさわしい音色やフレーズの表現を指して表現を工夫する。 ・三声部のかかりから生み出される全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏する。 ・リコーダーの運指、タンギングや息の使い方の技能を身に付ける。	「ナウシカレクイエム」 (リコーダー三部)	音色 旋律 テカテカ	フレーズ 和音	○リコーダーの演奏に意欲的に取り組んでいる。 (観点1) ○リコーダーの美しい音色や響きを感じ取り、演奏する。 (観点2) ○曲想や他の旋律とのかかわりを感じ取り、演奏している。 (観点2) ○正しい運指と息の使い方演奏している。 (観点3)	活動観察 発言内容 演奏聴取 演奏聴取	
7	豊かな混声合唱の響きを味わおう (8時間)	○混声三部合唱の豊かな響きを味わう。 ・基本的な発声を学び、呼吸の仕方や身体の使い方に気を付けながら、美しく響きのある声で歌う。 ・ソプラノ・アルト・男声パートに分かれ、生徒同士でのパート練習に取り組む。 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。 ・声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う。	「Let's search for tomorrow」 (混声三部合唱) 「各クラスで選択した楽曲」 (混声三部合唱)	音色 リズム 速度 旋律 テカテカ 構成	フレーズ 和音	○本時のねらいに即して即したパート練習や合唱に意欲的に取り組んでいる。 (観点1) ○歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現したい思いや意図をもって表現を工夫している。 (観点2) ○美しく響きのある声で歌うことができる。 (観点3) ○声部の役割や全体の響きを感じ取り、合わせて歌っている。 (観点3)	活動観察 発言内容 ワークシート 演奏聴取 演奏聴取	・特別活動との関連 (合唱コンクール) ・道徳との関連
9	歌詞の内容を生かした表現をしよう (3時間)	○我が国の自然や四季の美しさを感じ、日本語のもつ美しさを味わい、表現を工夫する。 ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。 ・作品についての理解を深め、表現したい思いや意図をもって歌う。	「赤とんぼ」(歌唱) 「夏の日の贈り物」 (混声二部合唱)	速度 テカテカ	Andante フレーズ	○歌詞の内容や言葉のもつ美しさを感じ取り、表現を工夫している。 (観点1) ○作品や歌詞の内容を感じ取り、表現を工夫している。 (観点2) ○歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現している。 (観点3)	活動観察 発言内容 ワークシート 演奏聴取	
10	「さくら」の間奏をつくらう (2時間)	○平調子の特徴を感じ取り、リズムや音のつながり方を工夫して旋律をつくる。 ・「リズム」「音のつながり」「表現したいイメージ」の観点から、「さくら」の間奏をつくる。 ・平調子の音階の構成音によって生み出される雰囲気を感じ取り、それを踏まえて間奏をつくる。	「さくら」	リズム 旋律	拍 拍子 音階 動機	○創作学習に意欲的に取り組んでいる。 (観点1) ○意図をもって、前半2小節につながるリズムを考えられる。 (観点2) ○リズムや音のつながり方を工夫しながら旋律をつくらう。 (観点3)	活動観察 活動観察 ワークシート 活動観察 ワークシート	

11	和楽器の響きと我が国の伝統的な歌唱に親しもう (5時間)	○ 箏の基本的奏法や箏曲にふさわしい歌い方を学びながら、我が国の伝統音楽に親しむことができるようにする。 ・ 楽器に触れながら、基本的奏法を習得する。 ・ 楽器の構造や姿勢、音の出し方などを知り、よい音色を目指す。 ・ 地歌箏曲を鑑賞し、発声などの特徴を感じ取る。 ・ 曲種に合った発声や言葉の特性を生かして歌う。 ・ 箏曲の規範演奏を鑑賞する。 ・ 様々な奏法や速度の変化を感じ取り、箏曲の豊かな表現を味わう。	「姫松・若竹」 「歌謡・器楽」 「さくらさくら」 「器楽」 「鑑賞」 「鑑賞」 「初音の曲」 「鑑賞」	音色 リズム 速度 旋律 テカクエ	拍子 間 序破急 音階 調 和音	○ 箏曲に興味・関心をもち、意欲的に取り組むことができる。 ○ 箏の音色を感じ取ったための工夫をしている。 ○ 箏の音色を生かして歌うための工夫をしている。 ○ 箏のよい音色を目指し、工夫して表現しようとしている。 ○ 箏の基本的な奏法を身に付けることができる。 ○ 箏曲に応じた発声や言葉の特性を生かして歌うことができる。 ○ 箏の音色や奏法、歌唱表現などの音楽的特徴を感じ取り、良さや美しさを味わうことができる。 (観点4)	活動観察 発表観察 活動観察 ワークシート 発表観察 ワークシート 活動観察 発表観察 ワークシート 活動観察 発表観察 ワークシート	・ 伝統的な歌唱
12	我が国の音楽・アジアの音楽に親しもう (4時間)	○ 我が国の伝統音楽やアジアの諸民族の音楽の特徴から、音楽の多様性を感じ取る。 ・ 雅楽「越天楽」に用いられている楽器の音色や、それによって生み出される音楽の特徴を感じ取る。 ・ 前題材で学習した我が国の伝統的な音楽とアジアの音楽を比較し、共通点や相違点、固有性などを感じ取る。 ・ それぞれの音楽のよさを味わって鑑賞する。	「越天楽」 「日本民謡」 「沖繩民謡」 「京劇」 「ガムラン」 「ケチヤヤ」 「ホーミー」 「鑑賞」 等	音色 リズム テカクエ 形式	間 序破急	○ 各地域の音楽に興味・関心をもち、意欲的に聴いている。 (観点1) ○ 雅楽に用いられる楽器の音色を感じ取っている。 (観点2) ○ 各地域の音楽の特徴を感じ取っている。 (観点2) ○ 各地域の文化などを理解し、それぞれの音楽のよさを味わっている。 (観点4)	活動観察 ワークシート 発表観察 ワークシート 発表観察 ワークシート 発表観察 ワークシート 発表観察 ワークシート	・ 言語活動の充実
1	ギターに親しもう (6時間)	○ ギターの基本的奏法を学び、簡単な曲を演奏する。 ・ ギターの弾き方や奏法を学ぶ。 ・ ギターで音階や旋律の演奏ができるようになる。 ○ コード進行に合わせて、ストローク奏法で演奏できるようにする。 ・ 左手のコードの押さえ方を学ぶ。 ・ ストローク奏法を学習する。 ○ コード進行に合わせて、曲のイメージにあったリズム創作をする。 ・ 曲の雰囲気を感じ取り、曲のイメージに合ったリズム創作をする。	「さらさら星」 「カントリーロード」 「器楽・創作」	音色 リズム 旋律 テカクエ 構成	調 音階 和音	○ ギターについて関心をもち意欲的に演奏している。 (観点1) ○ リズム創作に意欲的に取り組んでいる。 (観点1) ○ 曲想を感じ取り、表現したい思いや意図をもち表現している。 (観点2) ○ 曲想を感じ取り、曲のイメージにあったリズム創作をしている。 (観点2) ○ ギターの基本的な奏法が身に付いている。 (観点3)	活動観察 発表観察 演奏観察 活動観察 ワークシート 発表観察 ワークシート	・ 言語活動の充実
2	音楽のもつ豊かな表現力を味わおう (2時間)	○ 声の変化などを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、表現の豊かさを感じ取る。 ・ 情景や物語を想像し、イメージしながら聴く。 ・ 作曲者と楽曲についての理解を深める。 ・ 感じたことを言葉で説明する。 ・ 声のもつ表現の豊かさを味わう。	「魔王」(鑑賞)	音色 リズム 速度	三連符 Allegro	○ 情景を想像しながら意欲的に鑑賞している。 (観点1) ○ 音楽を形づくっている要素や構造のかわわりを感じ取って、楽曲の豊かな表現を味わっている。 (観点2) ○ 楽曲を聴いて感じたことを音楽を形づくっている要素とかわわらせて言葉で説明するなどしてよさを味わっている。 (観点4)	活動観察 発言内容 ワークシート 発言内容 ワークシート	・ 言語活動の充実
3	卒業・進級の喜びを歌で表現しよう (5時間)	○ 卒業式を控えた合唱をする。 ・ 歌詞の内容や曲想を感じ取り、心を込めて歌う。 ・ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う。	「校歌」 「蛍の光」 「速い日の歌」 「混声三部合唱」 「仰げば尊し」 「混声四部合唱」	音色 旋律 テカクエ	フルズ 和音	○ 意欲的に活動に取り組んでいる。 (観点1) ○ 表現したい思いや意図をもち、表現を工夫している。 (観点2) ○ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫して歌うことができる。 (観点2) ○ 発声や言葉の発音に気を付けて歌うことができる。 (観点3)	活動観察 活動観察 ワークシート 活動観察 ワークシート 演奏聴取	・ 特別活動の関連 (卒業式)

(2) 学習指導案例

第1学年〇組音楽科学習指導案

平成〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時  
指導者 ○ ○ ○ ○

1 題材名 和楽器の響きと我が国の伝統的な歌唱に親しもう

2 題材について

(1) 生徒の実態から

生徒は、音楽の様々な分野に興味をもっており、合唱や器楽、鑑賞など授業に真面目に取り組んでいる。10月には合唱コンクールを行い、クラス合唱の楽しさを味わい、音楽の質的向上を目指して、学習活動に取り組むことができた。

本校の生徒に、「音楽の授業が好きか」というアンケートを実施した。全校生徒のうち、46%の生徒が「音楽が好き」と答えた。逆に9%の生徒は「音楽が嫌い」と答え、残りの45%の生徒は「どちらでもない」と答えた。音楽の授業が好きな理由としては、「歌を歌うことや、楽器を演奏することがおもしろい」という「歌唱・器楽」の領域への興味・関心のある生徒が多かった。逆に音楽の授業が嫌いな生徒の理由として、「鑑賞がつまらない」「楽譜が読めない」というような意見が多かった。また、生徒の実態として、授業中の生徒の発言やワークシートの記述内容を分析すると、音楽活動に意欲的に取り組むことはできているが、活動に対して「この部分は音楽的にこうなっているから、このように考え、このように表現したい」というような言葉で説明する活動までには至っていない。

・学習に関わる一般的な実態、題材に関わる実態を明確に書く。  
・音楽科においては、従来、主観に頼ることが多かったので、アンケートを取るなどして客観的なデータをもとに書くようにすると焦点化が図れる。  
・生徒の実態から、この題材をどのように指導していくのか、指導上の留意点や目標にせまるための手だてを具体的に書く。  
・学習指導要領のどこと関連しているのか、端的に書く。  
・生徒の実態を受けて、この題材を取り扱うことによって、どのような力を付けたのかを活動内容と関連させながら書く。

(2) 題材設定の意図

本題材は学習指導要領との関連 A 表現(1)歌唱イ、(2)器楽イ、B 鑑賞 アに即して進めていく。

中学校学習指導要領音楽科の目標の中に、「音楽文化についての理解を深め」ることが新たに規定された。内容の改善として、我が国のよき音楽文化を世代を超えて受け継がれるようにする観点から「歌唱共通教材の提示」、「我が国の伝統的な歌唱の充実」、「和楽器を取り扱う趣旨の明確化」が提示された。国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められる中、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から、学校や学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われることが重要視されている。本校の生徒は、西洋音楽に関する意識は高いが、我が国の音楽に関する興味・関心は低い。我が国の伝統音楽に関して幅広い視野をもてるようにするためにも自ら和楽器に触れたり、我が国の伝統的な歌唱に取り組んでいきたい。

本題材では、我が国の伝統音楽に親しみ、音楽に対する理解を深めるために、山田流箏曲である「姫松・若竹」を箏を弾きながら歌うことによって箏曲にふさわしい歌唱はどのようなものかを考え、表現を工夫する活動を行う。箏曲を演奏したり、鑑賞したりすることによって、和楽器の音色や我が国の伝統音楽独特の間や産字などの要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせたい。そして、感受したことを自分なりの言葉で表現し、他者と意見を共有しながら、自分たちの箏曲の演奏につなげて我が国の伝統音楽のよさや美しさを感じ取らせたい。

3 題材の目標

- (1) 箏の基本的な奏法を身に付け、音色を感じ取りながら演奏する。
- (2) 曲種に応じた発声や言葉の特性を生かして歌うことができる。
- (3) 我が国の伝統音楽に親しみ、音楽に対する理解を深める。

取り扱う教材の特徴と、題材の目標を達成するためになぜこの教材を選んだのかを具体的に書く。

4 教材について

(1) 「姫松・若竹」(山田流箏曲)

平易な曲で、箏の初心者にとって、大変親しみやすい曲である。奏法として難しい部分がないので、歌いながら器楽を演奏することができると考え、選曲した。

(2) 「さくら」(山田流箏曲)

旋律が親しみやすく生徒たちもよく知っている曲である。箏の奏法としては押し手(強押し・弱押し)があり、「姫松」で基本的な奏法や姿勢を身に付けた後の演奏曲として適していると考え、選曲した。

(3) 「六段の調」(箏曲 八橋検校作曲)

連続する六段からなり、初段目を除いて各段とも104拍と一定しているのが特徴である。曲は、段を追うに従って次第に変奏の度合いを増して行く、一種の変奏曲ともいえ、箏の基本的手法が効果的に盛り込まれている。生徒に様々な箏の技法の特徴と音色を感じ取らせたい。

(4) 「初音の曲」(山田流箏曲 箏組歌 山田検校作曲)

山田検校が作曲した唯一の箏組歌で、奥許の曲として重視されている。調弦は平調子で従前の箏組歌の定型通り六歌からできている。一人で演奏し、歌と箏の音色や響きを味わうには適した曲である。声の音色、箏の音色、箏と声の旋律のずれ、産字、速度の変化などを生徒に気付かせるには、分かりやすい曲であると考え選曲した。

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。 器楽イ 楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。 鑑賞ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。			
〔共通事項〕ア	音色	リズム	速度	旋律
イ		拍 拍子 間 序 破 急		音階 調 和音
具体的な学習活動	・箏の基本的な奏法と姿勢を身に付ける ・曲種にあった発声を感じ取る	・拍節的でないリズムに気付く。 ・箏曲を鑑賞したり、演奏する中で間を味わう。 ・「初音の曲」の鑑賞でテンポの変化や様々な奏法が生み出す曲想の変化を味わう。		・平調子について学習する。 ・箏と声の関係を感じ取る。

## 6 評価規準（題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準）

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	①我が国の伝統音楽に興味・関心を持ち、活動に意欲的に取り組むことができる。	①曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌い方を工夫することができる。 ②楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて、演奏を工夫することができる。	①曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌っている。 ②楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏している。	①我が国の伝統音楽に親しみ、音楽に対する理解を深める。
学習活動における具体的評価規準	①箏の基本的な奏法に興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。 ②我が国の伝統的な歌唱の発声に興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。	①箏の基本的な奏法を身に付け、よい音色を目指し、表現を工夫することができる。 ②箏曲の声の音色を感じ取って聴き、発声や言葉の特性を生かして歌うための工夫をしている。	①箏の基本的な奏法を身に付けることができる。 ②伝統的な歌唱の発声や言葉の特性を生かして歌うことができる。	①箏の音色や奏法、歌唱表現などの音楽的特徴を感じ取り、よさや美しさを味わうことができる。

7 指導と評価の計画では、〔共通事項〕は文章の中の言葉として使用する。具体的評価規準は、6の評価規準の全項目を位置付けるようにする。

## 7 指導と評価の計画（全4時間）

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準
第1次 箏の基本的な奏法を身に付けよう		
1	○箏の基本的な事項を学習する。 ・楽器の持ち方、セッティングの仕方、座り方、姿勢、爪の付け方を確認する。 ・音の出し方、弦の番号を確認する。 ・調弦の仕方（平調子）を確認する。 ○「姫松・若竹」を演奏する。 ・箏の基本的な奏法を意識して、演奏する。	○一つ一つことを丁寧に確認し、順序立てを適確に行う。 ☆箏の基本的な奏法に興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。（ア①）  ○基本的な奏法を意識しながら、演奏できるように助言をする。 ☆箏の基本的な奏法を身に付けることができる。（ウ①）
2	○「さくら」を演奏する。 ・一つ一つの音を確認し、よい音色を意識しながら演奏する。  ○「押し手」の奏法を身に付ける。 ・左手の弦を押す位置や体の使い方に気を付けて演奏する。 ・「強押し」「弱押し」を区別して演奏する。	○基本的な奏法を意識し、箏の音色に注意しながら工夫して演奏できるようにする。 ☆箏のよい音色を目指し、表現を工夫することができる。（イ①）  ○左手の位置、強押しと弱押しの違いや具体的な方法を分かりやすく提示する。
第2次 箏曲に応じた発声や言葉の特性を生かして歌おう		
3 (本時)	○「姫松・若竹」を箏を演奏しながら歌う。 ○「この道」を声の音色に注目して比較聴取する。 ・ベルカント唱法の発声の演奏と伝統的な歌唱の発声の演奏を聴き比べ「音色」に関して気付いたことを発表する。 ○「姫松・若竹」の模範演奏を視聴し、気付いたことを発表し、自分たちの演奏に生かせるようにする。 ・聴いた声の音色や視聴して気付いたことを基に話し合い、表現を工夫する。	○どのような発声で歌えばよいか考えながら演奏する。 ○気付いたことを発表させ、違いをまとめ、それぞれの特徴を考えさせる。 ☆箏曲の発声に興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。（ア②）  ○実際に箏を演奏したり、歌ったりして試しながら演奏できるようにする。 ○お互いに助言しながら、どうすればよりよい演奏になるか、話し合いをしながら練習する。 ☆箏曲の音色を感じ取って聴き、発声や言葉の特性を生かして歌うための工夫をしている。（イ②）
4	○「初音の曲」を鑑賞する。 ・箏と歌の音色、リズム、速度、旋律に注目して聴く。 ・知覚、感受したことを基に、「どのようなことを感じたのか」など言葉で説明する。 ○「姫松・若竹」「さくら」を、箏を演奏しながら歌う。 ○前時で学習したことを基に、表現を工夫して演奏する。 ○「六段の調」を鑑賞する。 ・箏の音色や様々な奏法に注目して聴き、その効果を感じ取りながら楽曲全体を聴く。 ○再度「初音の曲」を鑑賞する。 ・器楽曲と地歌箏曲の違いや雰囲気にも注目して楽曲全体を味わって聴く。	○これまでに学習した事項を知覚・感受し、それらが生み出す特質や雰囲気を感知取り、それを基に楽曲全体を味わって聴くことができるようにする。 ☆箏の音色や奏法、歌唱表現などの音楽的特徴を感じ取り、よさや美しさを味わうことができる。（エ①）  ○自分たちが考えた表現の工夫を取り入れて、実際に歌えるようにする。 ☆発声や言葉の特性を生かして歌うことができる。（ウ②） ○どのような奏法を用いているのかを考え、様々な奏法の効果と表現に気付くことができるようにする。  ○器楽曲の「六段の調」と地歌箏曲の違いに注意して聴くようにさせる。 ☆箏の音色や奏法、歌唱表現などの音楽的特徴を感じ取り、よさや美しさを味わうことができる。（エ①）

## 8 本時の学習指導（第2次 3/4時）

### (1) 本時の目標

- ①箏の音色や奏法、地歌箏曲の歌唱表現の音楽的特徴を感じ取ることができる。
- ②我が国の伝統的な歌唱の発声や言葉の特性を感じ取りながら歌うことができる。

### (2) 展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準（評価方法・手だて）
1 「姫松・若竹」を演奏する	○前回までの復習をする。三人一組で、箏を演奏しながら歌う生徒と、箏は演奏せずに歌う生徒に分かれて演奏する。

<p>2 「この道」を音色に注目して比較聴取する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルカント唱法の発声の演奏</li> <li>・伝統的な歌唱の発声の演奏</li> </ul>	<p>○「この道」をベルカント唱法のものとして伝統的な歌唱のものを聴き比べ「音色」に関して気付いたことを発表させる。</p> <p>&lt;生徒の予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルカント唱法は、母音を同じ音色のように歌っている。</li> <li>・伝統的な歌唱は、子音をはっきり歌っている。</li> <li>・ベルカント唱法は、喉に力が入っておらず、気持ちよく伸びやか。</li> <li>・伝統的な歌唱は、地声のようだが無理がない。</li> </ul>
<p>3 「姫松・若竹」の模範演奏を聴き、気付いたことを発表する。</p>	<p>○模範演奏を聴取し、気付いたことを発表させ、どのような歌い方で歌えばよいかを考えられるようにする。</p> <p>&lt;生徒の予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母音を丁寧に言い直している。→産字に関すること</li> <li>・フレーズの最後を大切に伸ばして歌っている。→間に関すること</li> </ul>
<p>4 「姫松・若竹」を発声や声の音色を工夫して練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴いた声の音色を基に話し合い、表現を工夫する。</li> <li>・「姫松・若竹」の模範演奏を視聴し、気付いたことを発表し、声の音色を工夫して再度練習する。</li> </ul>	<p>○どうすればよりよい演奏になるか、グループでお互いに助言し合いながら練習できるようにする。</p> <p>○実際に箏を演奏したり、歌い方を工夫したりして試行錯誤しながら練習する。</p> <p>○演奏している様子から気付いたことをもとに、表現を工夫させる。</p> <p>&lt;生徒の予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・背筋を伸ばして演奏している。→姿勢に関すること</li> <li>・プレスをする時、お腹が膨らんでいる。→プレスに関すること</li> <li>・高い音を歌う時、あごを引いている。→演奏技術に関すること</li> <li>・言葉が変わる時は、必ず次の子音の言葉を意識していて、前の母音の言葉の口形になっていない。→言葉の発音に関すること。</li> </ul> <p>☆箏曲の音色を感じ取って聴き、発声や言葉の特性を生かして歌うための工夫をしている。</p> <p>(ア①イ①活動観察 ワークシート)</p>
<p>5 「初音の曲」を鑑賞する。</p>	<p>○学習した事項から、音楽を味わって聴くことができるようにする。</p> <p>&lt;生徒の予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声の音色 ・箏の音色 ・箏の旋律と歌の旋律がずれている</li> <li>・産字 ・速度 ・リズムや拍、拍子</li> </ul> <p>☆箏の音色や奏法、歌唱表現などの音楽的特徴を感じ取り、よさや美しさを味わうことができる。</p> <p>(エ① 発表 ワークシート)</p>

9 備考 在籍生徒数 男子〇〇名 女子〇〇名 計〇〇名

<ワークシートの例> ※生徒が感じ取ったことを、外に表すための手だて

**箏に合う歌声を考えよう**

1 2種類の「この道」を聴いて、それぞれの「声の音色」の特徴を書こう。

1 曲目	
2 曲目	

2 模範演奏を聴いて、どのような歌い方で歌えば良いと思いますか。  
 <例>〇〇が△△のようになっていたので、口を(のように)して歌えば良い。

3 「初音の曲」を聴いて、次の視点で曲の特徴を書こう。  
 (1) 下のキーワードをもとに、学習したことを踏まえて感じたことを書こう。  
 <例> 音色が〇〇だから△△のような感じがした。

音色(箏・歌)	リズム	速度	旋律	その他
---------	-----	----	----	-----

(2) 地歌箏曲を聴いて、分かったこと・気に入ったことを書こう。上記のキーワードを生かしながら「音楽的に〇〇なので△△だと思った」というように音楽的な理由を必ず入れること。

(1)

(2)

・生徒に「声の音色」の特徴に関して、  
 1 曲目→ベルカント唱法の発声  
 2 曲目→我が国の伝統的な歌唱の発声の音色の違いを比較聴取させ、知覚・感受させる。知覚・感受したことを基に、「どのような感じがしたのか」を発表させる。  
 ・どちらの「声の音色」が自分たちの学習している「姫松・若竹」にふさわしいかを考え、その理由も記入する。

・模範演奏を聴いて、「どのような声で歌えばよいか」、「どのように工夫して歌えばよいか」を考える。  
 ・どのようにすれば、模範演奏のように歌えるかを思考・判断し、表現の工夫をする。  
 ・自分の考えを全体で発表したり、グループ毎に意見を交換しながら考えを深めていき、表現につなげていく。

・授業の中で気付いたこと、分かったことを中心にキーワードとする。そのキーワードを基に鑑賞することで、聴く観点がずれないように留意する。  
 ・実際に曲の中で学習したことが身に付いているかどうかを確認する。  
 ・曲の中でそれ以外のことに気付く生徒もいるので、「その他」も含める。

・楽曲の中で知覚・感受したことを基に、「どのようなことを感じたのか」、「自分にとってどのような価値があるのか」、「地歌箏曲にはどのような特徴があるのか」など、言葉で説明する。

(3) 指導計画例

指導計画例 1

<題材名：「さくら」の間奏をつくろう> (第1学年・2時間扱い)

- 1 題材の目標 平調子の特徴を感じ取り、リズムや音のつながり方を工夫して旋律をつくることができる。  
 2 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	創作ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。		
〔共通事項〕	リズム		旋律
	拍	拍子	音階
具体的な学習活動	・拍や拍子の理解を深めながら、旋律をつくる。 ・拍節的なリズムにより旋律をつくる。 ・反復や変化などのリズムを工夫して旋律をつくる。	・動機から曲想を感じ取り、それを基に旋律をつくる。	・音階の特徴を感じ取り旋律をつくる。 ・音のつながり方を工夫して旋律をつくる。

3 教材名 「さくら」日本古謡

4 指導と評価の計画

○学習内容	・主な学習活動	○指導上の留意点	☆具体的評価基準
「さくら」の間奏をつくろう ※本指導計画例における個々の生徒が創作活動で使用する楽器：アルトリコーダー			
1	<p>○平調子による音階の聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏による平調子の音階を聴き、その特徴を感じ取り、感じたことをワークシートに記入する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;ワークシートの例&gt;</p> <p>◇ 箏において平調子(ひらちょうし)と呼ばれる音階があります。この響きを聴いて感じたことを書きましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平調子の構成音をワークシートに音を記入する。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">創作に用いる音として次時で指示</p> <p>○既習曲の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さくら」をアルトリコーダーで奏する。</li> </ul> <p>○本時の目標の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「さくら」の間奏をつくろう</p> </div> <p>○曲想の異なる3種類の間奏の聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前半2小節の間奏を3種類聴き、最もよいと感じた間奏を選ぶ。</li> </ul> <p>&lt;間奏譜例&gt;</p>  <p>○知覚・感受した(その間奏を選んだ)理由の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その間奏を選んだ理由を「リズム」と「音のつながり」から考え、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 箏を用いて平調子の音階を提示する。</li> <li>○ 何名か指名し、感じたことを発表させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「平調子の音階を提示するに当たって」</p> <p>平調子に調弦した箏と西洋音階に調弦した箏の二面を用意し、それらを弾き比べ、雰囲気の違いを感得するような学習も効果的である。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 五音音階としての平調子を理解させ、ワークシートに音を記入させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【知覚・感受】</p> <p>ここまでの学習指導のねらい…生徒に、音階の構成音を知覚させ五音音階によって生み出される独特な特徴や雰囲気を感受させ、それを基にして今後の学習が展開されるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が知覚・感受した平調子の独特な特徴や雰囲気から、「さくらさくら」が平調子でつくられた楽曲であることに気付かせる。</li> <li>○ 平調子の構成音でつくられた前半2小節の間奏の後、後半2小節の間奏をつくることを知らせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「前半2小節の間奏を提示する意図」</p> <p>平調子の構成音でつくられた前半2小節の間奏を示すことによって個々の生徒に、曲想にかかわる、自己のイメージをもたせ、それを基に、今後の学習が段階的かつ発展的に展開できるよう考慮した。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲想の異なる前半2小節の間奏を3種類聴き、最もよいと感じた間奏を選ぶことを知らせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「曲想の異なる複数の間奏を提示する意図」</p> <p>曲想の異なる複数の間奏を提示し、個々の生徒が最もよかった間奏を「自ら選ぶ」という活動を通して、主体的に知覚・感受しようとする意識を高めるよう考慮した。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3種類の間奏を提示する。</li> <li style="margin-left: 20px;">(「さくらさくら」後半～間奏2小節～「さくらさくら」前半)</li> <li>○ 【選んだ理由の観点】を提示し、各々生徒が、選んだ思いや意図を明確にもてるようにする。</li> <li style="margin-left: 20px;">【選んだ理由の観点】 → ・リズム ・音のつながり</li> </ul>	



<ワークシートの例>

◇ なぜ、その間奏を選んだのですか。なんとなく？  
今回の学習では、それを一歩進んで、『リズム』から受けたイメージと『音のつながり』から受けたイメージについて考え、自分がその間奏を選んだ意味や意図を人に説明できるようにしてみましょう。

- ・『リズム』から受けたイメージはどのようなもの？
- ・『音のつながり』から受けたイメージはどのようなもの？

【思考・判断、試行錯誤】

各々の生徒が、これまで知覚・感受してきたことを基にしながら、実際に思考・判断し、試行錯誤しながら創作活動を行う学習段階に入る。

○つくりたい間奏のイメージ化

- ・つくりたい間奏を「リズム」、音のつながりから考え、ワークシートに記入する。

<ワークシートの例>

◇ さあ、あなたは、その間奏を選んだ理由をしっかりと説明することができました。これはあなた自身がその間奏を選んだ理由をしっかりと分かったことでもあります。

では、この前半2小節につづる後半2小節をどのような間奏をつくりたいですか？ 『リズム』と『音のつながり』から考えてみましょう。

- ・どんな『リズム』の間奏をつくりたいですか？
- ・どんな『音のつながり』の間奏をつくりたいですか？

○アルトリコーダーの練習

- ・選んだ間奏の前半2小節をアルトリコーダーで練習する。

○リズム創作

- ・選んだ間奏の後半2小節のリズムを考える。

(リズムパターン)

【知覚・感受】

個々の生徒が、その間奏を選んだ理由を「なんとなく」といった漠然とした内容ではなく、曲想にかかわる自己のイメージと音楽を形づくっている要素とをかかわらせながら、知覚・感受した理由を明確にさせることが重要である。

- 最もよいと感じた理由を【選んだ理由の観点】から考えさせ、ワークシートに記入させる。

「生徒から引き出したい‘選んだ理由’の例」

リズム

- ・[1]の譜例 「さくら」と同じリズムが使われていて、間奏として合っていると思った。
- ・[2]の譜例 リズムが同じ繰り返して緊張感のある感じがよかった。こういう速いリズムはこの曲に出てこないで逆によいと思った。
- ・[3]の譜例 三連符のリズムがよい感じだった。

音のつながり

- ・[1]の譜例 音のつながりがゆるやかで、低い音が多く落ち着いた感じで、間奏で音楽が休憩をするような感じがよかった。
- ・[2]の譜例 リズムと同じように繰り返しが多く中で、最後の、3、4拍目の音の変化がよかった。
- ・[3]の譜例 2小節目の一気に落ちてくる感じが気に入った。さくらの花びらが一気に散って落ちるような感じをもった。

- 【選んだ理由の観点】から考えたことを基に、つくりたい間奏を考え、ワークシートに記入させる。

「生徒から引き出したい‘つくりたい間奏’の例」

リズム

- ・[1]の譜例 「さくら」と同じリズムを組み合わせたい。
- ・[2]の譜例 同じリズムを繰り返して緊張感のある間奏をつくりたい。でも最後はゆったりと終わらせたい。
- ・[3]の譜例 八分音符や三連符を使ってスピード感のある間奏をつくりたい。

音のつながり

- ・[1]の譜例 音の動きがゆるやかで、低い音域でのゆったりとした感じの間奏をつくりたい。
- ・[2]の譜例 高い音域で音を繰り返して、より緊張感を高めたい。でも最後は低い音域で終わらせたい。
- ・[3]の譜例 前半の間奏は一気に落ちてくる感じだったので、後半は一気に駆け上がるような間奏をつくりたい。そのために三連符を上手に使いたい。

- 選んだ間奏を短時間で練習させる。

- 選んだ間奏を自ら奏することによって、リズムや音のつながりから感じ取ったイメージを、さらにふくらませる。

- 後半2小節のリズムをつくることを知らせる。

「リズム創作を行う意図」

各々生徒が円滑に学習を進めることができるよう、リズムと音のつながりを同時に扱わず、段階としてリズム創作を本時の学習内容とした。

- 拍や拍子について指導する。
- 学習が進まない生徒への支援としてリズムパターンを示す。

- 記譜の仕方等、個々の学習進度に応じた支援を行う。
- ☆ 試行錯誤しながら意欲的にリズム創作に取り組んでいる。

(ア 観察・ワークシート)

- ☆ つくりたい間奏のイメージを基に、意味や意図をもって、前半2小節につながるリズムを考えることができる。

(イ 観察・ワークシート)

☆ 「評価規準を設定するにあたって」

題材の目標(指導目標)は何か、生徒にどのような学習をさせたかったのか、に照らして設定することが大切である。

2 ○前時の復習と本時の目標の確認

「さくら」の間奏を完成させよう

<用いる音>



○創作活動

- ・アルトリコーダーで音を探りながら後半2小節の間奏をつくる。
- ・つくった間奏を五線紙に書く。

「五線紙の工夫」

生徒に使用させる五線紙については、楽譜を書くという経験が未熟な生徒が多いことを考慮し、各小節に拍の区切りを明示するなど実態に応じた提示を行う。

五線紙例



- ・隣の仲間と互いにつくった間奏を聴き合う。

<ワークシートの例>

◇ つくった間奏を見直そう！  
友達からもらったアドバイスについてメモしておこう！

- ・間奏の始まり方
- ・間奏の終わり方
- ・リズム
- ・音のつながり

友達からのアドバイスを参考に最後の仕上げをしよう！

思考・判断した内容が読み取れる様式を工夫することが大切である。

○発表

- ・つくった間奏を発表する。
- ・曲-間奏-曲の発表になるよう、聴く生徒は間奏の前後に「さくら」を演奏する。

作品が完成したら、何らかの形で発表を行わせたい。創作した作品の演奏を聴き合っ、生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりしてコミュニケーションを図ることも、学習指導要領に示された内容である。

例えば、ペアで演奏を聴き合い、その後何名かが全体で発表する、または小グループ内でそれぞれ発表を行い、そこで選ばれた生徒が全体で発表するなど、生徒の実態に応じて発表の仕方を工夫し、本題材のまとめとしたい。

- 前時に学習した、つくりたい間奏のイメージと、それを基につくったリズムの復習をさせる。
- つくったリズムに音程を付けることを知らせる。
- 前時に、平調子の構成音を学習しワークシートに記入した音を、今回用いる音として提示する。
- 前時に学習した、つくりたい間奏のイメージをしっかりと踏まえさせる。
- 前半2小節につづく‘始まり方’及び間奏の‘終わり方’に留意させる。(リズム、音のつながりから)

- 個々の生徒の学習進度に応じた支援を行う。
  - ・記譜の仕方の支援
  - ・音が浮かばない生徒への支援
  - ・考えた間奏の音が分からない生徒への支援
  - ・学習進度の速い生徒へは、同じ間奏や別の間奏を用いて複数の間奏をつくらせる等の支援

- 互いに創作した意味や意図と、それに伴う工夫した点を話してから聴き合わせる。
- 曲のよさや見直すポイントについて意見交換を行わせる。

前半2小節につづく‘始まり方’及び間奏の‘終わり方’  
・‘リズム’及び‘音のつながり’

- ☆リズムや音のつながり方を工夫しながら間奏をつくっている。(イ 観察・ワークシート)
- ☆つくった間奏を五線紙に書くことができる。(ウ 観察・ワークシート)

☆「創作における評価について」

創作においては〔共通事項〕として示される音や音楽をとらえる窓口を生かしながら、個々の生徒が思考力や判断力、イメージや感情を働かせ、音のつながり方を試行錯誤してつくっていく過程を見取ることが最も大切である。

- 創作した意味や意図と、それに伴う工夫点を話してから発表させる。
- 表現したいイメージと、‘リズム’や‘音のつながり’の関連性を考えながら聴かせる。

○指導に当たって

生徒が創作活動に使用する楽器については、各中学校の実態に合わせて工夫することができる。例えば、本指導計画において使用したアルトリコーダーをはじめ、ソプラノリコーダー、キーボード、鍵盤ハーモニカ、箏等があげられる。特に箏を使用する際には、割爪や裏連等、奏法の工夫を取り入れた指導計画を作成することも可能である。いずれの場合も、「楽曲を完成させる」ことではなく、短く単純な創作から始め、生徒の「つくる」という意欲を高揚させながら「創作」の指導の充実を図ることが肝要である。

**指導計画例2**

＜題材名：音楽のもつ豊かな表現力を味わおう＞（第1学年・2時間扱い）

**1 題材の目標**

○声の変化などを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、表現の豊かさを感じ取る。

**2 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動**

指導事項	鑑賞ア	音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。		
〔共通事項〕	ア	音色	リズム	旋律
	イ		三連符	
具体的な学習活動		・登場人物ごとの声の変化を感じ取る。	・繰り返されるリズムの効果を感じ取る。（三連符など）	・登場人物ごとの旋律の特徴を感じ取る。

**3 教材 「魔王」 シューベルト作曲**

**4 指導と評価の計画**

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体の評価規準
	<p>※本事例の「指導と評価の計画」の作成にあたり、授業構成のもととなった考え方は以下のとおりである。（上記「2 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動」の表参照）</p> <p>○第1次 鑑賞アより「音楽を形づくっている要素や構造や曲想とのかかわりを感じ取る」 ↓ 具体的な学習活動では、まず、①「登場人物ごとの声の変化」②「登場人物ごとの旋律の特徴」③「伴奏で繰り返される三連符のリズムの効果」を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。（※〔共通事項〕を知覚・感受させるようにする。） ↓ 次に、上記①②③のそれぞれの関連や楽曲全体の成り立ち等の「構造」をとらえ、「魔王」の曲想を感じ取る。（※構造と曲想とのかかわりを感じ取らせるようにする。）</p> <p>○第2次 指導事項アより「言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」 ↓ 具体的な学習活動では、まず、第1次で知覚・感受したこと、構造から感じ取った「魔王」の曲想について、自ら感じたことや自分なりに解釈したことをまとめる。 次に、互いに感じたことや解釈したことを発表し合う。他者の感じ方や解釈を理解するとともに、「魔王」の紹介文を書く。（※言葉で説明させるようにする。） 最後に、「魔王」を味わって聴く。（※よさや美しさを味わわせるようにする。）</p>	
	<p>第1次 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取ろう</p>	
	<p>○教材楽曲の聴取 ・「魔王」を聴取し、演奏形態、全体の雰囲気を感じ取る。</p> <p>○物語と登場人物の把握 ・「魔王」の物語の内容や登場人物について知る。</p> <p>○登場人物ごとの特徴の把握 ・登場人物ごとの声の変化を感じ取る。</p>	<p>○演奏形態（独唱、ピアノ伴奏）に気付かせるとともに、初めて聴いた印象を発表させる。</p> <p>○気付いたことを自由に発言させ、教師が観点ごとにまとめて板書等をする。</p> <p>○詞の内容や登場人物「語り手、父、子、魔王」などの説明をしながら、「魔王」についての興味・関心を高める。</p> <p>○登場人物ごとに聴取させ、声、旋律の特徴や変化について知覚させ、それらの特質や雰囲気を感じ取る。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物ごとの旋律の特徴を感じ取る。</li> <li>・伴奏で繰り返される三連符の特徴を感じ取る。</li> </ul> <p>○「魔王」の全体把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の声や旋律の特徴、伴奏の特徴から楽曲全体の曲想を感じ取る。</li> </ul>	<p>(引き出したい生徒の意見の例)</p> <p>「父は低い声で歌い、子どもに言い聞かせている雰囲気を感じた。」</p> <p>「子どもは、高い声で歌われていて、曲が進むにつれて、より高く、強くなり、恐怖を表現しているようだ。」</p> <p>「魔王は、甘い声で優しく歌っているが、最後で、声の音色が変わり、本性を出したように感じた。」</p> <p>○ピアノ伴奏に着目して聴取させる。</p> <p>☆登場人物ごとの「声の変化」や「旋律の特徴」、 「伴奏で繰り返される三連符のリズムの効果」に関心を持ち、意欲的に聴取している。(イ)</p> <p>○感じ取った楽曲全体の曲想を発表させる際、「どうしてそう感じたのか?」「なぜ、そう言うふうになったのか?」など、その理由を自分の言葉で表現させる。</p> <p>☆登場人物の声の変化や旋律の特徴、伴奏の特徴から楽曲全体の曲想を感じ取っている。(エ)</p>
--	--

第2次 聴き取ったことを言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わおう

<p>○前時の学習内容の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「魔王」を聴取し、前時で感じ取った曲想を改めて感じ取る。</li> <li>・感じ取った曲想や感想を発表する。</li> </ul> <p>○「魔王」の聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの発表を参考にしながら、もう一度「魔王」を聴く。</li> </ul> <p>2 ○「魔王」の紹介文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介文の書き方を知る。</li> <li>・感じ取った曲想や曲想をもとに、「魔王」の紹介文を書く。</li> </ul> <p>○紹介文の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに紹介文を発表する。</li> <li>・他の生徒の紹介文を聞く。</li> </ul> <p>○学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「魔王」を鑑賞する。</li> </ul>	<p>○前時に学習した、「登場人物ごとの声の変化」「登場人物ごとの旋律の特徴」「伴奏で繰り返される三連符のリズムの効果」などを知覚、感受するとともに、全体の構造から、改めて曲想を感じ取れるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>発言例 曲の全体の流れが(～)で、その中に(～)が感じられて、それが怖さを一層感じさせていると思う。それを引き出しているのは(～)だからである。だから自分は(～)と感じた。</p> </div> <p>○感じ取った曲想や感想を発表させる際には、知覚、感受した内容を具体的な言葉で発表させるようにする。</p> <p>○発表させる際には、互いの発表内容の共通点や相違点についても発言させるようにする。</p> <p>○特に、自分との相違点があった内容については、留意して聴かせる。</p> <p>○次のような紹介文の書き方を理解させる。</p> <p>(例) ・「魔王」の特徴やよさを、まだ「魔王」を知らない仲間を紹介する内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだ人が、どのような点に注意して聴いたらよいか分かるようにする。</li> <li>・自分の感想や考え、意見も入れるようにする。</li> </ul> <p>○紹介文には、知覚、感受した登場人物ごとの「声の変化」「旋律の特徴」や伴奏の効果等の具体的な内容とそれらを自分がどう感じ、どう思い、どう考えたのかについても書かせるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>「音楽を形づくっている要素や構造」と「特質や雰囲気及び曲想」とのかかわりと自分なりの感じ方を書けるようなワークシートを工夫することが大切である。</p> </div> <p>☆感じ取った「声の変化」「旋律の特徴」「伴奏の効果」等を言葉で説明するなどして、「魔王」のよさをより味わって聴いている。(エ)</p>
---	---

指導計画例3

<題材名：声部の役割を生かして表現を工夫しよう> (第2学年・3時間扱い)

- 1 題材の目標 (1) 音楽を形づくっている要素や構造から、各声部の役割を理解することができる。  
 (2) 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫することができる。
- 2 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	
〔共通事項〕	ア	旋律・テクスチャ
	イ	和音
具体的な学習活動	・主旋律と他声部とのかかわりについて感じ取る。 ・声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して表現の工夫をする。	・声部の役割や曲想を生かして強弱を工夫する。

3 教材名 「心の中にきらめいて」 田崎はるか作詞 橋本祥路作曲

4 指導と評価の計画

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準
第1次 声部の役割を理解して表現を工夫しよう		
1	<p>○本時の目標の確認 各パートの役割を理解して表現を工夫しよう</p> <p>○斉唱による[A]の部分の表現 ・Aを歌う。</p> <p>○パート練習 ・B-Coda のパート練習をし、正確な音程やリズムで歌う。</p> <p>○合唱練習 ・A-B-Coda を合わせて歌う。 ・A-B-Coda それぞれにおける各パートの役割を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Bあのおきのおもいではいま たしかにめぐりくるー</p> <p>えがおでかたりあーった ときのようにー</p> <p>こころのなかにーかがやいてー いつまでもわすれないー</p> <p>==== ユニゾン ----- ソプラノとアルトが同一音              _____ ソプラノと男声が同一音</p> <p>□ ソプラノと男声のバランスに留意</p> <p>※ 主旋律が常に響き、かつ自然な流れで表現できるためには、ユニゾンや声部が分かれることを意識させ、音色や音量バランスを整えさせることが大切である。</p> </div>	<p>[本時の学習指導について] 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して表現を工夫するため、特に主旋律と他声部とのかかわりを柱にして学習指導を展開する。</p> <p>○ 次の点に留意して全体で歌わせる。 ・言葉の響きや発音を意識させる。 ・のばす音符や休符の扱いに留意させる。 ・斉唱(ユニゾン)であることを意識させ、声部すべてが旋律であることを理解させる。</p> <p>○ A-B-Coda について、主旋律を明確にとらえさせ、主旋律と副次的な旋律の役割について意見交換させながら歌わせる。</p> <p>[ここでの学習指導のねらい] 題材の目標に照らして、音楽を形づくっている要素や構造から、各声部の役割を理解させる。</p> <p>&lt;生徒から引き出したい意見例&gt; ・Aはユニゾンなので、歌詞をより強調して歌ったほうが良い。 ・B-Coda のソプラノは主旋律の役割をしていて、どのパートよりも響きが豊かでなければならない。 ・B-Coda のアルトは主旋律と一緒に動いて、時々主旋律と同じ音になりながら主旋律を引き立たせる役割をしている。 ・B-Coda の男声は、主旋律と一緒に動いて、時々主旋律と同じ音になりながら全体の響きを支える役割がある。さらにCoda においては、テノールとバスに分かれ、全体の響きがより一層広がるような役割をしている。等</p> <p>○ 上述にあるような意見を引き出すために、ソプラノ-アルト、またはソプラノ-男声で歌ってみる等の工夫をする。 ○ Bにおいて、主旋律が常に響き、かつ自然な流れで表現するために、各声部の強弱や音色を工夫させる。</p> <p>[ここでの学習指導のねらい] 題材の目標に照らして、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫させる。← 思考・判断</p> <p style="text-align: center;">&lt;生徒から引き出したい意見例&gt;は本時の評価につながる。</p>
	<p>○学習の整理 ・各パートの役割と表現の工夫点をワークシートに記入する。</p>	<p>☆ 声部の役割を考え、表現を工夫することに意欲的に取り組んでいる。(ア 発言・活動観察) ☆ 音楽を形づくっている要素や構造から、各声部の役割を理解することができる。(イ 発言・ワークシート)</p>

<p>2</p>	<p>○前時の復習と本時の目標の確認  各パートの役割を理解してCの表現を工夫しよう</p> <p>○パート練習  ・Cのパート練習をし、正確な音程とリズムで歌う。</p> <p>○合唱練習  ・Cを合わせて歌う。</p> <p>・Cにおける各パートの役割や表現の工夫について、自分の考えを発表する。</p> <p>&lt;生徒から引き出したい意見例&gt;  〔ソプラノ〕・主旋律の役割をしていて、どのパートよりも響きが豊かでなければならない。  ・C3小節目のGは、アルトが違う音に分かれるので、ソプラノの響きが細くならないように注意する。  ・C4小節目の4拍目のGisは、ソプラノだけなので特に豊かな響きに留意する。  〔アルト〕・主旋律と一緒に動いて、主旋律に、より豊かな響きを付ける役割をしている。  ・ソプラノと同じ音になるところは、急にそこで主旋律の音量が大きくなるようにバランスに注意する。  ・C2小節目の4拍目から4小節目の1拍までは、特にソプラノに溶け合わせるように表現したい。  〔男声〕・男声は、主旋律と一緒に動いて、全体の響きを支える役割をしている。  ・C2小節目の4拍目から、3小節目の2拍目は、主旋律が低い音域で男声が高い音域なので旋律を消さないように歌う。  ・C5小節目から最後まで、全体の響きを支えるように歌う。</p> <p>&lt;生徒から引き出したい意見例&gt;は本時の評価につながる。</p> <p>○学習の整理  ・各パートの役割と表現の工夫点をワークシートに記入する。</p>	<p>[本時の学習指導について]  前時に学習した、主旋律を柱とした声部の役割と全体の響きとのかかわりを基にCの部分の表現を工夫させる。</p> <p>○ 主旋律を明確に捉えさせ、主旋律と副次的な旋律の役割について意見交換させながら表現の工夫をさせる。</p> <p>[ここでの学習指導のねらい]  題材の目標に照らして、音楽を形づくっている要素 ←<b>知覚・感受</b> や構造から、各声部の役割を理解させる。また、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫させる。←<b>思考・判断</b></p> <p>○ 上述にあるような意見を引き出すために、ソプラノーアルト、またはソプラノー男声で歌ってみる等の工夫をする。  ☆ 積極的に自分の考えを発表し、意欲的に活動に取り組んでいる。 (ア 発言・活動観察)  ☆ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して表現を工夫することができる。 (イ 発言・ワークシート)</p>
----------	--	--

第2次 声部の役割を生かして表現を工夫しよう

<p>3</p>	<p>○前時の復習と本時の目標の確認  Cの表現をグループで工夫し発表しよう</p> <p>○Cの原曲の聴取  ・ベートーヴェン作曲 ピアノソナタ第8番『悲愴』第2楽章を聴取する。  ・曲のイメージ、強弱について感じたことをワークシートに記入する。</p> <p>○グループ学習 (少人数による合唱)  ・Cの表現について意見し合いながら表現活動をする。</p> <p>&lt;生徒から引き出したい意見例&gt;  <b>曲のイメージから</b>  原曲はとても穏やかで、ゆったりと流れるようなイメージだったので全体的にpやmpで、ゆったりとなめらかな表現をしたほうがよい。  <b>強弱から</b>  ・C3小節目は4拍目に向かって主旋律の響きを感じながらクレッシェンドし、C4小節目の1拍目Gをやわらかく丁寧に入るとよい。  ・C6小節目のcisを少しふくらませた方がよい。そのために男声のAの音色や音量バランスに注意する。</p> <p>○発表  ・グループ毎にCの発表をする。</p> <p>○学習のまとめ  ・全員で通して歌う。</p>	<p>[本時の学習指導について]  前時では、主旋律と副次的な旋律の役割と全体の響きとのかかわりを基にCの表現を工夫した。本時ではさらにCの原曲の聴取を加え、←<b>知覚・感受</b> 声部の役割や曲想を生かしてCの強弱を工夫させる。←<b>思考・判断</b></p> <p>○ 聴取の観点として①曲のイメージ、②強弱、を明確に示し、聴取後①②のポイントからワークシートに記入させる。</p> <p>[聴取活動の留意点]  教師は、題材の目標に迫るために、何の楽曲のどの要素を生徒に聴取させるのか、そして生徒はそこから何を学ぶのか、を明確にとらえて指導する。</p> <p>○ リーダーを中心に、グループで話し合い活動を含めた練習をさせる。(以下、グループ指導での留意点)  ・『悲愴』で聴取した曲のイメージや強弱をもとに、強弱の表現を工夫させる。  ・前時の学習から、主旋律と副次的な旋律の役割と全体の響きとのかかわりに留意し、表現を工夫させる。</p> <p>☆ グループによる表現活動に意欲的に取り組んでいる。 (ア 活動観察)  ☆ 声部の役割や強弱を生かして表現している。 (ウ 活動観察)</p> <p>○ グループで工夫した点を述べてから発表させる。  ○ 以下①～③を踏まえ、聴き手の何名かに感想を発表させる。  ① 全体の響きがよかった点と、それに伴う声部の工夫点。  ② 強弱の表現のよかった点と、それに伴う声部の工夫点。  ③ 声部の役割と全体の響きとのかかわりから改善点。</p> <p>○ 声部の役割と全体の響きとのかかわりに留意し、表現を工夫しながら合唱させる。</p>
----------	---	---

**指導計画例4**

**<題材名：箏のよさを感じ取ろう> (第3学年・2時間扱い)**

- 1 題材の目標 (1) 箏の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏する。  
 (2) 箏の演奏活動を通して、音色や響き、奏法の特徴を感じ取り、我が国の伝統音楽のよさを味わう。
- 2 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽イ	楽器の特徴を理解し基礎的な奏法を生かして演奏すること		
〔共通事項〕	ア	音色	旋律	テクスチャ
	イ		音階	間
具体的な学習活動		・箏の奏法による様々な音色や演奏の効果を感じ取る。(合わせ爪、かき爪、押し手等) ・箏の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏する。(箏曲「六段の調」初段の演奏) ・箏の演奏活動を通して、音色や響き、奏法の特徴を感じ取り、我が国の伝統音楽のよさを味わう。		

3 教材名 箏曲「六段の調」 八橋検校作曲

4 指導と評価の計画

時	○学習内容	・主な学習活動	○指導上の留意点	☆具体の評価基準
第1次 箏の特徴を理解しよう				
1	○既習曲の聴取(箏曲「六段の調」) ・箏曲「六段の調」を聴取する。 ○箏についての基礎的な事項の復習 ・楽器の構造や調弦(平調子)の方法を知る。 ・座り方を含めた姿勢、爪の付け方を知る。 ・基礎的な奏法について復習する。 [右手の奏法] ①合わせ爪 ②かき爪 [左手の奏法] 押し手(①強押し②弱押し等)	○箏曲「六段の調」初段の演奏 第1学年の鑑賞で取り扱った「六段の調」で学習した内容と関連をもたせ指導計画を作成することが大切である。 第3学年であっても、初めて器楽として取り扱うため、基本的な事項についての学習内容を取り扱っている。	○楽譜を見ながら模範演奏を聴かせる。 ○模範演奏、教科書、視聴覚教材等を用い楽器の構造や調弦などを説明する。 ○右手の奏法と左手の奏法を実際に音を出しながら説明する。 ○演奏にふさわしい姿勢や奏法による音色や演奏効果の違い等を感じ取らせながら演奏させるようにする。 ○全員が箏を演奏し特徴をつかめるようにする。 ○感じ取った基礎的な奏法の特徴を生かしながら、初段を演奏させる。 ○生徒の実態に応じて、五線楽譜等を準備する。 ○爪で弾いた後の余韻等、箏の響きや音色を十分感じ取らせながら演奏させる。 ☆箏の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏することができる。 イ・ウ(演奏観察)	
第2次 箏の基礎的な奏法を生かして演奏し、我が国の伝統音楽のよさを味わおう				
2	○箏曲「六段の調」初段の演奏 ・基礎的な奏法を練習しながら、奏法と音色のかかわり等を感じ取る。 ○音色についての学習 ・奏法と音色とのかかわりについて、互いに意見を交換する。 ・班毎に意見を交換し合った内容を発表する。		○前時に学習した、基礎的な奏法について、グループ内で、音を出しながらお互いに確認させる。 ○箏曲「六段の調」初段の演奏については、一人一人の演奏状態を把握して指導する。また、グループ内で合わせたり、ペア学習で確認させたりする等、学習形態を工夫し、技能の確実な定着を図るようにする。 ○箏曲「六段の調」初段の演奏をしながら、奏法と音色のかかわり等を感じ取らせる。 ○ワークシートに記入する際、箏の音色や奏法による響きの変化等、知覚した内容とそれらの働きが生み出す特質や雰囲気などの感受した内容の両方を書かせるようにする。 ○互いに意見を交換する際には、実際に箏の音を出しながら意見を出させる等、音に対するイメージを共有しやすいようにする。	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間の意見から、改めて感じたこと等をワークシートにまとめる。</li> </ul> <p>○ まとめの演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 箏曲「六段の調」初段の演奏をする。</li> </ul>	<p>○ ワークシートにまとめる前に、もう一度、箏曲「六段の調」初段の演奏を聴かせ、音色や響きについて感じ取らせてから記述させる。</p> <p>○ 一つ一つの奏法のよさを感じ取らせながら、箏曲「六段の調」初段を演奏させるようにする。</p> <p>☆ 箏について理解を深め、基礎的な奏法を生かして演奏することができる。 イ・ウ (演奏観察)</p>
--	---

○ 指導に当たって

本指導計画例は、第1学年の鑑賞として「六段の調」を学習したことを踏まえ、第3学年の器楽として「六段の調」の初段を学習するものである。

箏や三味線などは、基本的に座って演奏することによって伝統的な音楽の世界が現れてくる。本指導計画例でも座って箏を演奏し、姿勢や身体を使い方に配慮して学習を展開させている。このことは、我が国の伝統や文化を理解するための大切な基盤となっていくと考える。

本指導計画例では、箏の特徴を理解し、「六段の調」の初段を基礎的な奏法を生かして演奏する能力を高めることをねらいとしている。そして、単に爪の弾き方や押し手などの奏法を身に付けるのみでなく、箏の音色に着目し、音楽を形づくっている要素と箏の音色や響きとのかかわりを知覚させ、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせながら、技能を身に付けていく学習を展開している。

また、第2時では、実際に箏の音を出しながら、奏法と音色とのかかわりについて、互いに意見を交換する場を設定している。実際に音を出しながらの意見交換により、生徒が互いに音に対するイメージを共有できるとともに、感じ取った内容やその理由について、言葉で説明することで、互いの意図に共感する等、コミュニケーションを図る指導につなげている。

なお、音楽活動は本来、音によるコミュニケーションを基盤としたものである。本指導計画例のように、言葉による生徒同士のコミュニケーションを図る指導を展開することはもちろんのこと、これらのコミュニケーションの結果として、音そのものによるコミュニケーションを一層充実することに結び付けていくように配慮することが大切である。

【第2時のワークシート】の例

よい音色を目指すためにどのようなことに気を付ければよいだろう		
奏法	どのような特徴があるだろうか	どのようなことに気を付けて演奏すればよいだろうか
合わせ爪		
かき爪	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>それぞれの奏法によって生み出される音色等の特徴を知覚・感受し、その特徴を表現するために、実際に音を出しながら演奏の工夫をさせることが大切である。</p> </div>	
押し手		
姿 勢	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導に当たっては、姿勢や体の使い方に十分な配慮が必要となる。 姿勢による音色の違いなどを体感する活動が大切である。</p> </div>	

○ 授業を終えてあなたが感じたこと・発見したこと

-----

-----

-----



**指導計画例5**

**<題材名：長唄の表現と歌舞伎> (第3学年・3時間扱い)**

- 1 題材の目標**
- (1) 歌舞伎や長唄のよさを味わって聴く。
  - (2) 長唄の特徴を理解し、それらを生かした歌い方を工夫する。

**2 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動**

指導事項	歌唱イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。 鑑賞イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞すること。
〔共通事項〕	ア 音色
	イ 間
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎における長唄の役割と効果を感じ取り、そのよさを味わって聴いている。</li> <li>・曲種に応じた発声の特徴を感じ取る。</li> <li>・我が国の伝統的な声や節回しの特徴を感じ取って歌う。</li> </ul>

**3 教材名** 長唄「勸進帳」 四世 杵屋六三郎 作曲

**4 指導と評価の計画**

時	○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆具体的評価規準
第1次 歌舞伎「勸進帳」について知ろう		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「歌舞伎」の理解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎について知っていることを発表する。</li> <li>・歌舞伎の概要を知る。</li> </ul> </li> <li>○「長唄」の理解                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌舞伎の伴奏音楽である「長唄」について知る。</li> </ul> </li> <li>○歌舞伎「勸進帳」の内容の把握                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物、物語の背景について知る。</li> <li>・登場人物の心情を推察する。</li> <li>・弁慶と富樫の問答場面を視聴する。</li> </ul> </li> <li>・長唄「勸進帳」が演奏される場面を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表させた内容をきっかけにして、「歌舞伎」について概要を理解させる。</li> <li>○歌舞伎の伴奏音楽である「長唄」について、視聴覚教材を用いて簡潔に説明する。</li> <li>○各場面について、資料を用い簡潔に解説を行う。</li> <li>○弁慶と富樫の問答部分を視聴させ、歌舞伎の醍醐味を感じ取らせる。</li> <li>○長唄の音楽的効果を感じ取らせるようにする。</li> <li>☆歌舞伎における長唄の役割と効果を感じ取り、そのよさを味わって聴いている。(エ)</li> </ul>
第2次 長唄の特徴を感じ取り、それを生かして歌おう		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国の伝統的な歌唱の特徴の把握                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・長唄「勸進帳」の後半部分を聴取する。</li> </ul> </li> <li>・感じ取った我が国の伝統的な歌唱の特徴を発表する。</li> <li>○長唄の歌い方の特徴の把握                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の範唱やゲストティーチャーの声を聴いて歌い方を把握する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長唄「勸進帳」の一部を聴取し、長唄の特徴を感じ取らせる。感じ取る特徴の例                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・声の音色</li> <li>・節回し、旋律装飾</li> <li>・三味線、小鼓、大鼓などの響きや役割</li> </ul> </li> <li>○感じ取った特徴を発表させる際、必要に応じて、長唄「勸進帳」の一部を改めて聴取させ、その都度、特徴を感じ取らせる。</li> <li>☆声の音色や節回しの特徴を感じ取っている。(イ)</li> <li>○歌う姿勢や、声の出し方、母音の扱いについて触れるとともに、知識だけでなく、実際に声を聴取（教師の範唱またはゲストティーチャーによる）したり、姿勢をつくってみたりしながら特徴を把握できるようにする。</li> <li>○特に姿勢や身体の使い方については、歌うための姿勢のみならず、それに適した身体の使い方が大切にされてきたこと等</li> </ul>

○我が国の伝統的な歌唱の歌い方の工夫

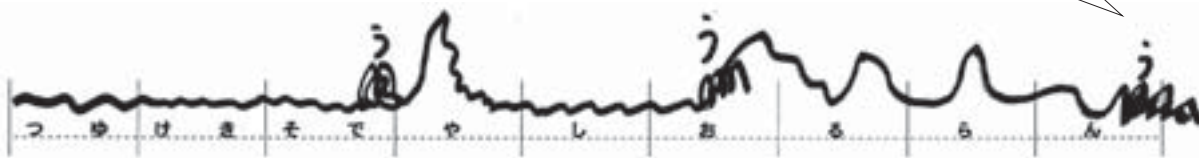
- ・長唄「勸進帳」の冒頭部分（謡いガカリ）を聴取する。
- ・長唄「勸進帳」の冒頭部分（謡いガカリ）を範唱に続いて歌う。
- ・「産字」について知る。
- ・歌詞の記入してある資料に節に合わせて、波形を記入し、歌唱表現に役立てる。

に触れ、我が国の伝統や文化を理解するための大切な基盤となることを、体験を通して理解させる。

- 教師の範唱やゲストティーチャーの声で、「たびのころもはは・・・しおるらん」の部分聴取させる。
- 特に発声については、発声の方法を教えるだけでなく、どのような声色、どのような身体の使い方などによって声の特徴が表現できるかについて、生徒自ら気付くように指導する。
- 「産字」の意味と「産字」がもつ表現の特徴を感じ取らせる。
- 節に合わせて波形を書かせることで、節回しをより明確に知覚・感受できるようにする。
- ☆声の音色や節回しの特徴を感じ取って歌っている。 (イ)

波形を記入させることの意義について

- ・楽曲そのものに耳を傾けさせることができる
- ・節回しを客観的に確認することができる
- ・独特の抑揚を感じることもできる
- ・産字部分を認識し、知覚・感受することの手がかりとなる



※「う」は産字部分

○前時の確認

- ・第2時で記入した波形をもとに節回しを確認する。
- ・長唄「勸進帳」の冒頭部分（謡いガカリ）を範唱に続いて歌う。

- 前時に学習した、どのような音色、どのような身体の使い方などによって声の特徴が表現できるかについて十分留意させて歌わせるようにする。

○曲種に応じた発声の特徴の理解

- ・ナポリ民謡「サンタ・ルチア」を聴取する。
- ・長唄「勸進帳」の冒頭部分（謡いガカリ）を聴取する。

- ナポリ民謡と長唄を続けて聴取することにより、発声の特徴を感じ取らせ、我が国の伝統的な声の特徴を改めて感じ取らせる。
- ☆発声の違いから、我が国の伝統的な声の特徴を感じ取っている。

○学習のまとめ

- ・長唄「勸進帳」の冒頭部分（謡いガカリ）を、範唱に続いて歌う → 個々で歌う → 合わせて歌う
- ・長唄「勸進帳」を鑑賞する。

- 本題材のまとめとして、我が国の伝統的な歌唱の特徴を感じ取らせながら、長唄「勸進帳」の冒頭部分（謡いガカリ）を歌わせる。
- 長唄「勸進帳」をもう一度鑑賞し、我が国の伝統的な歌唱のよさや美しさを味わわせる。
- ☆我が国の伝統的な歌唱の特徴を感じ取り、そのよさや美しさを味わっている。 (エ)

3